

# ほけんだより



郡山市立小原田小学校 2月号 令和7年2月7日



3学期が始まって、1カ月が経ちました。郡山市内では、インフルエンザの流行はおさまってきましたが、新型コロナウイルス感染症が流行しています。インフルエンザは、これまではすべてA型でしたが、これからB型が流行するかもしれませんので、引き続き、感染症を予防しましょう。また、**発熱・鼻水・せき・のどの痛みなどの症状のある人は、急のため受診をお願いします。**

保護者の方へ

## 小原田地域学校保健委員会を行いました



本年度も、小原田地域の児童生徒の健康づくりを学校・家庭・地域で協力して推進していくために、1月16日（木）に「小原田地域学校保健委員会」が開催されました。

参加者は、小原田小中学校の校医の先生方、小中学校のPTA代表の方々、小中学校の代表職員です。会の中では、小原田小中学校の

子どもの体力・健康・食育などについて、調査結果の共有などを行い、小原田地域の健康課題とその解決の方針について、話し合いを行いました。

小原田地区の主な健康課題としては、以下の点が挙げられました。



- ① **運動能力は、前年よりは向上している種目はあるが、全体的に全国平均を下回っている種目が多い。特に立ち幅跳びは、小中共に課題の種目である。**
- ② **国・県の平均と比べ、視力が低下している子どもが多い。**
- ③ **国・県の平均と比べ、むし歯が多い（未処置率が高い）傾向にある。**

小原田地区は以前はむし歯が少なかったが、年々増加傾向にある。

- ④ **朝食摂取率は90%を越えているが、小中共に全国平均より低い。**

また、朝または夕食を一人で食べている子どもが1～2割いる。



なお、**肥満傾向の子ども**についてはコロナ禍で一時大きく増加したものの、段々減少しており、**改善傾向**にありました。

また、これまで**小原田地区の給食の残菜率も他校と比べ多い状況**にありましたが、3年間の学校保健委員会の食育の取り組みにより、食事の栄養バランスに気を付けるなどの**児童の意識や残菜量に向上・改善が見られました**。



以上を踏まえて、会議では以下のような意見が出ました。

- 運動能力は少し向上している種目があるようでよかった。楽しく運動をしてほしい。（眼科・古川先生）
- **子どもの歯の仕上げ磨きは、大人が見て「自分で磨けている」と思うくらいまで続けてほしい。**最低でも低学年は仕上げ磨きをしてほしい。また**定期受診**をしてほしい。（歯科・鈴木先生）
- 近視やむし歯については、これまで通り、治療するように繰り返し保護者におたよりを出すことが必要と思われる。（中学校校長・関根）
- **誰かと一緒に食事をすることや一人食べの頻度は、心身の健康にもつながりがある**と言われているため、おたよりなどで発信していきたい。（栄養士・宮澤）
- **小学校高学年と中学校での肥満児の増加**が気になる。**肥満防止**には、朝食の栄養バランスを良くすることや、大皿で料理を出すことをやめて一人分を小皿に盛るなど、食事の出し方の工夫も必要と思われる。（内科・工藤先生）
- 食育の取り組みにより、小学生にも残菜が身近に感じられたと思う。**最近の子どもに口の中の発達機能障害が多く、肥満にもつながっている。**よくかむように、根菜類を多く食べるようにしてほしい。（歯科・鈴木先生）
- 学校で**食事を通して、社会とのつながりや食事に関わる人への感謝**を教えてくださっていることに感謝したい。（内科・古川先生）
- 食育は家庭での努力も必要か。学校の取り組みにより、先生方の努力が児童のアンケート結果や残菜量に反映されている。（眼科・古川先生）
- 「教育は10年かかる」と言われ、3年間の食育で効果が出なかった項目も、続けていくと効果が出てくると思われる。（薬剤師・志岐先生）
- 学校で細かく丁寧に指導して下さっていると知った。普段の規則正しい生活が大切だと感じたので、気をつけていきたい。（中学校PTA会長・橋本）



いただいたご意見をもとに、今後も小原田小中学校で取り組みを行っていく予定です。取り組みの結果は、随時保健だよりなどでお知らせします。